



SOLVE for SDGs

SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム

シナリオ創出フェーズ

ソリューション創出フェーズ

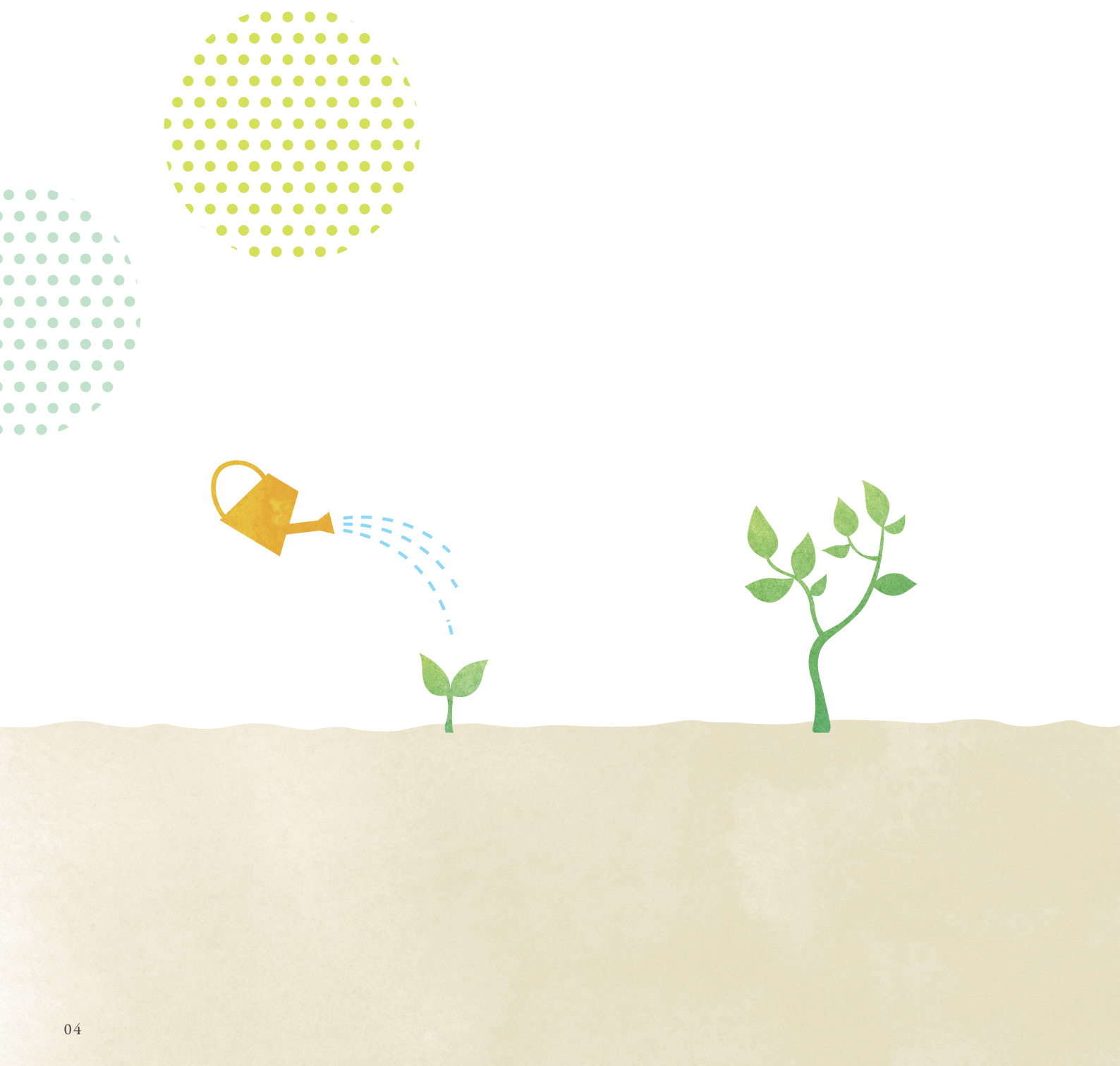
プログラム概要



Contents

ご挨拶.....	P.5
SOLVE for SDGsの3つの柱.....	P.6
SOLVE for SDGsの2つの研究開発フェーズ.....	P.8
プロジェクトチーム作り： 研究代表者と協働実施者.....	P.10
プロジェクトチーム作り： ステークホルダーとの協働.....	P.12
プログラム実施体制.....	P.14
プロジェクト一覧.....	P.16

SDGsの芽を地域から育てたい



ご挨拶

今日、社会が抱える課題は深刻化・複雑化しており、その解決のためには、多様なステークホルダーの協働によって全体最適な解を見出す努力が不可欠となっています。SDGsでは、グローバル課題、地域課題を問わず、市民をはじめ、企業、中央／地方政府、NPO、研究者など、誰もが各々の立場を超えて課題解決に参画することで、社会をトランスフォームし、誰一人置き去りにしない、強靱で包摂的で持続可能な社会を実現することをめざしています。

本プログラムでは、そのための共創的活動の促進をめざします。そして、目標達成のために十分なインパクトがあり、社会に「意味のある」変化を起こすための、生きた知見と有効なソリューションを創出することを支援していきます。

プログラム総括
川北 秀人



SOLVE for SDGs

SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム (シナリオ創出フェーズ・ソリューション創出フェーズ)

「SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム (SOLVE for SDGs) シナリオ創出フェーズ・ソリューション創出フェーズ」では、SDGsの達成に向けて、複合的で幅広いテーマの地域課題に対して技術シーズを活用したソリューション創出やソリューションの多地域展開を推進します。

SOLVE for SDGsの3つの柱

01

地域との対話・協働

問題は 地域（現場）に。
課題解決は地域（現場）で。

地域のかかえる社会課題に対して、ステークホルダーとの対話・協働を通じた**共創的研究開発**での解決を図ります。

02

STIの活用

STI（科学技術イノベーション）
を社会課題解決に活用

技術シーズとなるSTIを活用し、解決策を策定します。

03

解決策と事業計画

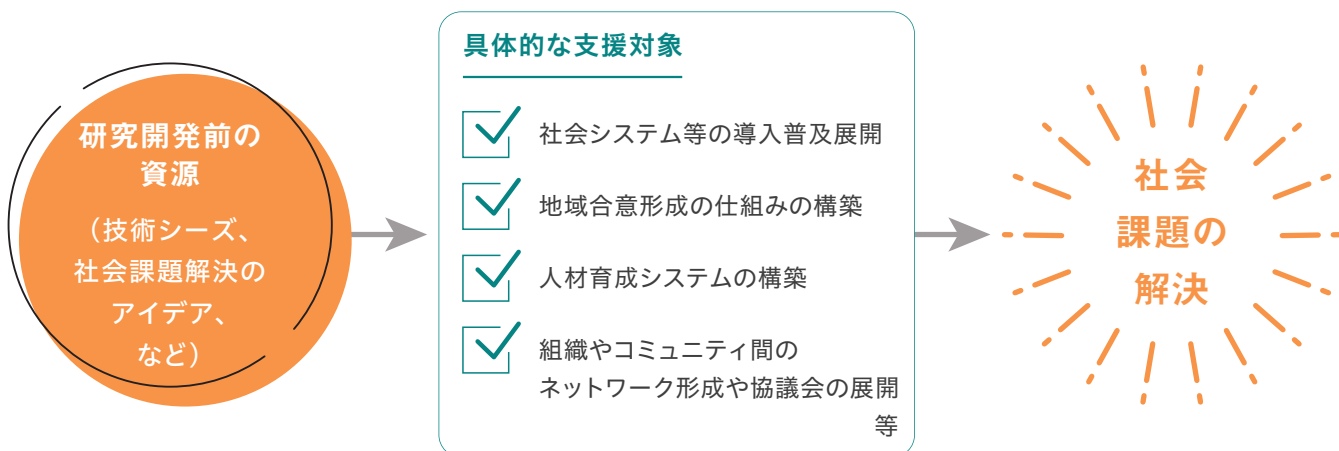
ソリューションの創出
多地域展開

解決策と事業計画を合わせて**ソリューション**と定義し、初めに取り組みを始めた地域以外にもソリューションを展開することを目指します。

海外を含めた多地域へ展開する活動を通じて
地域レベルでの実績を積み重ねることで、SDGsの達成に貢献します。

支援対象

SDGsの達成に向けて、本プログラムでは**社会課題を解決するための取り組み**そのものを支援します。



※技術シーズの商品化（起業化）に向けた取り組みは本プログラムの支援対象ではありません。

技術シーズって？

本プログラムでは、用途が想定された科学技術の研究開発成果であり社会の中で可能性試験ができる段階にある技術を「技術シーズ」として取り扱います。

現実の社会課題を解決するための科学技術の効果検証について、下記の段階は終了しているものを想定しています。

- プロトタイプとして示すための研究室レベルの可能性試験
- 研究室レベルでのソフトウェアの開発 等

実施中のプロジェクトの技術シーズの例

インクルーシブ防災を実現するための個人・世帯単位で予防的な被害予測・避難行動を促すアラートシステム

林業従事者の安心・安全な労働環境を守る低消費電力・遠距離通信GEO-WAVEを用いた通信拠点網

平時の福祉と防災の一体的推進のための福祉専門職向け災害時ケアプラン作成教育プログラム

心のレジリエンスを身につけるための幼少期からのメンタルヘルス予防教育プログラム

障がい者のICT機器操作を可能にする非接触非拘束のジェスチャインタフェース技術

人とシステムが協働する海岸清掃のための自律移動ロボットおよびその自律航行技術

2つの研究開発フェーズ

本プログラムではソリューションの創出に向け、2つのフェーズに分けて支援を行っています。

シナリオ創出フェーズ (原則2年間)

01

社会課題
の分析

地域との対話・協働を通して、社会課題の特徴を抽出し、課題が生じている原因やボトルネックを分析、明確化します。

02

可能性試験
の実施

分析で明らかになったボトルネックを解消する新たな社会システムを想定し、技術シーズを活用した可能性試験を通し解決策を検討します。

03

シナリオ
創出

可能性試験の結果を踏まえ、ロードマップを作成し、2030年度までに他地域にも解決策を展開してSDGsを達成する構想（シナリオ）を創出します。



ソリューション創出フェーズ (原則3年間)

01

実証試験と
条件検討

地域での共創的な実証試験を通して、社会課題解決策の有効性を示します。同時に、多地域展開に向けて、解決策を導入するために必要な条件・環境の検討を行います。

02

事業計画
の策定

支援期間終了後のプロジェクトチームの自立的継続にむけ事業計画の策定と計画実行の準備を行います。

03

多地域展開
の準備

支援期間終了後に解決策を多地域に展開するための準備を行います。



研究代表者と協働実施者

本プログラムでは、共創的な研究開発をおこなうため、
研究代表者と協働実施者の2人が中心となってプロジェクトを推進しています。



プロジェクト全体の責任者

研究開発の責任者として、研究開発全体に責務を負い、プロジェクトを推進します。
社会課題の解決に向けて大学等の研究者や、ソリューションの受け手となる協働実施者らによる体制を編成します。



社会課題に取り組む当事者の代表

研究者と協力して社会課題を解決することを希望する課題当事者の団体・組織の代表が、協働実施者としてプロジェクトに参加します。
※団体・組織を実質的に代表し社会課題に実際に取り組むことができれば、役職として代表者である必要はありません。

大学の教員

自治体担当者

福祉専門職と共に進める
「誰一人取り残さない防災」の
全国展開のための基盤技術の開発

亜熱帯島嶼の持続可能な水資源利用
に向けた参画・合意に基づく
流域ガバナンスの構築

研究代表者 立木 茂雄 (同志社大学 社会学部 教授)
協働実施者 村野 淳子
(別府市 防災局 防災危機管理課 防災推進専門員)

災害時に一人での避難が困難な避難行動要支援者のケアプランを作成できる福祉専門職を育成するため、教育プロジェクトを構築しました。教育プログラム受講とケアプラン作成の事業モデルについて、制度化と全国展開に取り組んでいます。

研究代表者 安元 純 (琉球大学 農学部 地域農業工学科 助教)
協働実施者 金城 盛勝 (八重瀬町 経済建設部 土木建設課 課長)

水資源を健全に持続的に活用していくために、農業、畜産、漁業、観光業の従事者から一般家庭まで、多様なステークホルダーと行政、研究者による対話の場を設け、水資源管理について継続的に考える組織づくりを進めています。

大学の教員

社団法人の代表

性暴力を撲滅する社会システム構築に向けた、
早期介入とPTSDケア迅速化の人材育成
および全国展開に向けた体制づくり

低消費電力・遠距離通信プラットフォーム構築
による安全安心な林業労働環境の創出と
地域山林資源活用 の可能性評価

研究代表者 長江 美代子 (日本福祉大学 看護学部 教授)
協働実施者 片岡 笑美子
(一般社団法人 日本フォレンジックヒューマンケアセンター 会長)

性暴力被害者を救済し新たな被害を防ぐために、性暴力被害者救援と、トラウマ、PTSD 専門医療のワンストップセンター拡充を愛知県から展開してゆきます。

研究代表者 森部 絢嗣
(岐阜大学Coデザイン研究センター 准教授)

協働実施者 小池 達也 (一般社団法人よだか総合研究所 理事)

いざというときの連絡手段の無い携帯電話の通信圏外で活動する林業者に安心・安全な労働環境を整備するため、低消費電力・遠距離通信GEO-WAVEを利用した通信拠点を設置し、通信網構築の効果を検証しています。

大学の教員

民間企業

最後の一人を救う
コミュニティアラートシステムの
モデル開発および実装

発達障害の特性に関連する対処法を
多様な脳特性に対応して自動提案する
情報配信サービスの可能性検証

研究代表者 小野 裕一 (東北大学災害科学国際研究所 教授)
協働実施者 橋本 尚志
(株式会社富士通総研 公共デジタル戦略グループ グループ長)

インクルーシブな防災の実現を目指して、個人や世帯単位でピンポイントに被災リスク情報を伝えるアラートの仕組みの開発と、自治体・民間などとのネットワークを活用した共助の仕組みづくりを行っています。

研究代表者 佐々木 銀河 (筑波大学 人間系 准教授)
協働実施者 鈴木 慶太 (株式会社Kaizen 代表取締役)

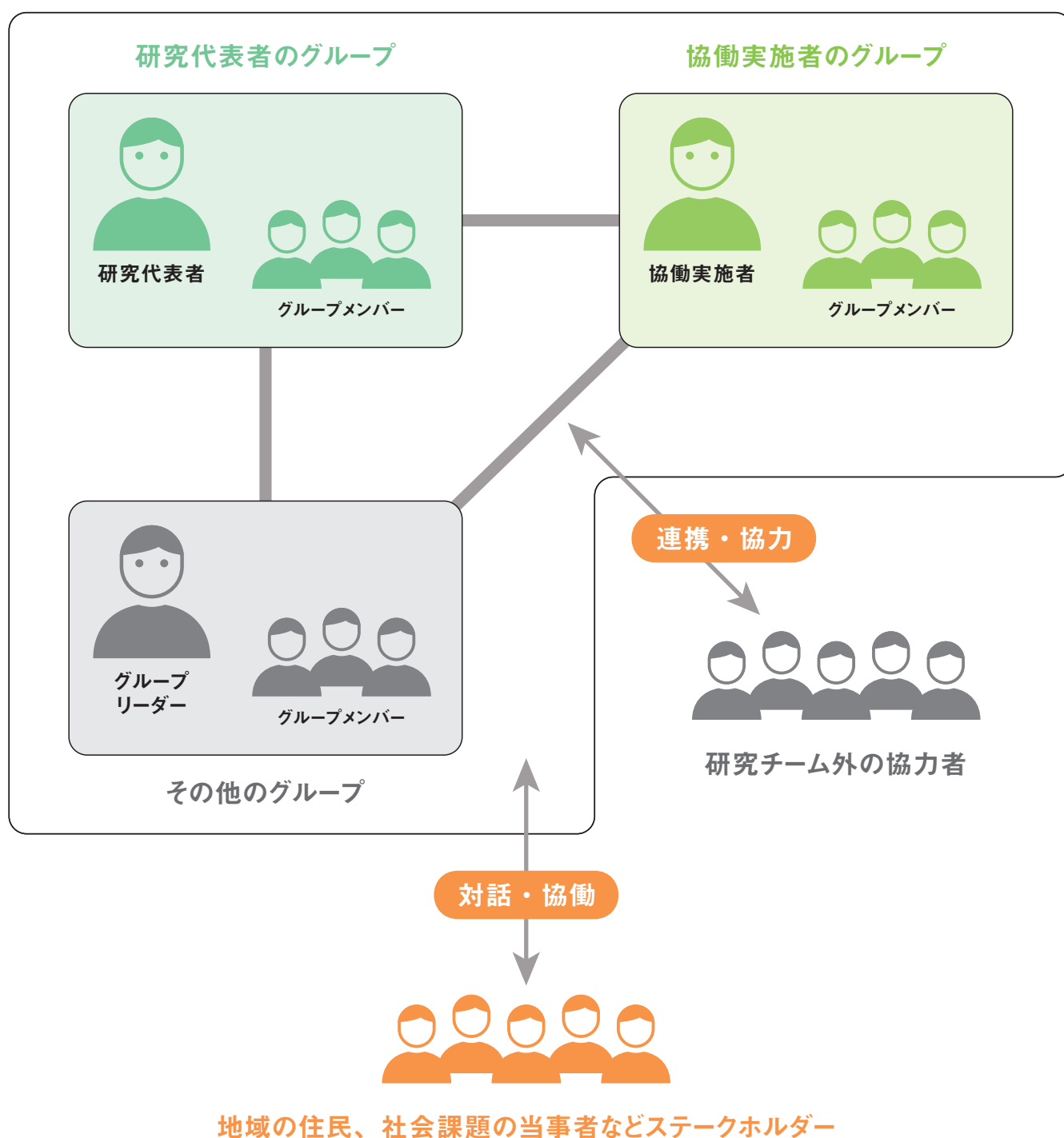
包摂的な社会に向けて、可視化しにくい障害特性のために学習や就労へのアクセスに困難を抱える発達障害の当事者とともに、有効な自助スキルや必要な支援サービスにつながるための情報配信システムを開発し、効果の検証をしています。

※研究代表者・協働実施者の所属・役職は終了時点

ステークホルダーとの協働

共創的な研究開発をおこなうためには、研究代表者・協働実施者を 中心とした研究開発チーム内での連携はもちろん、地域の社会課題の当事者や行政など、さまざまなステークホルダーを巻き込んだ対話・協働が不可欠です。

研究開発体制のイメージ



共創的なチーム作り

本プログラムでは社会課題を解決するためのイノベーションを行うことを目標とし、

具体的な課題を抱える地域を対象として研究開発を推進します。

このため、地域の人々との協働できるチーム作りが不可欠です。

課題解決の目的は何か？、誰が受益者か？、どのような方法で目的を達成するのか？、

どのような効果をいつまでにもたらすのか？ について、合意形成を目指して地域との対話を行っています。

本プログラムで求める、共創的チーム作りのチェックポイント



研究開発のすべての段階のステークホルダーを想定。

ポイント！ 研究開発の段階によってステークホルダーが変わることもあります。



社会課題当事者の方々が抱える多様な状況、背景を意識した協働体制。

ポイント！ 持続的な活動のためのネットワーク作り、事業化、制度化に向けた活動も本プログラムでは支援します。



課題解決によって予想される効果や目的の達成方法、達成される時期（終了時期）の明確化。

ポイント！ 目的とその達成時期の設定は、多様なステークホルダーとの協働において非常に大切です。また、目的の達成方法が他の方法に比べて優れていること、研究成果を受け取る人々が特定されていることも本プログラムでは重視しています。

社会技術研究開発のすすめ方

本プログラムをはじめ、RISTEXで実施している社会技術研究開発では、社会における課題解決に向けて、下記のような研究開発の進め方を重視しています。

1. 課題の発見と同定（対象の観察と計測）

2. 課題解決案の提示（対象の制御）

3. 評価基準の設定

4. 解決案の実践

5. 研究成果の評価

6. 定着、持続可能なシステム化、普及

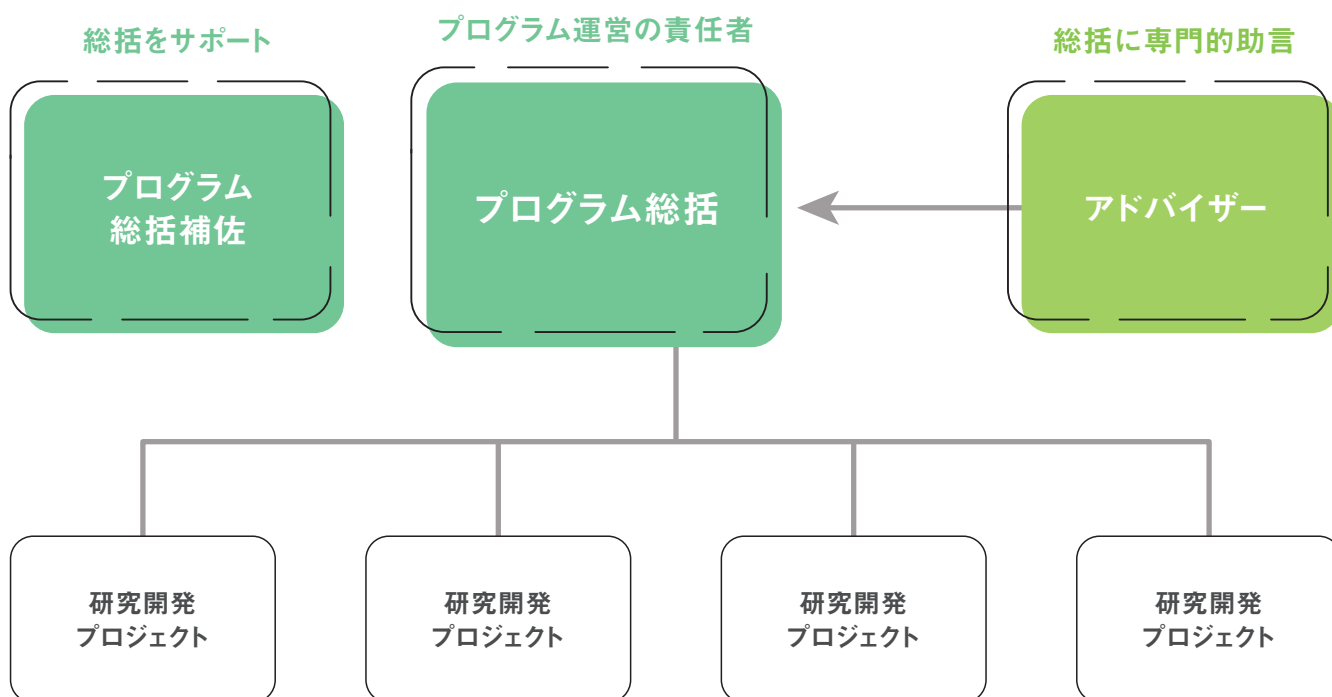
社会技術とは

「自然科学と人文・社会科学の複数領域の知見を統合して新たな社会システムを構築していくための技術」※であり、社会を直接の対象として、社会において現在存在しあるいは将来起きることが予想される問題の解決を目指す技術のこと。

※「社会技術の研究開発の進め方について」（2000年12月「社会技術の研究開発の進め方に関する研究会」（座長：吉川弘之・日本学術会議会長〈当時〉））

プログラム実施体制

本プログラムでは、プログラム総括が中心となって研究開発プロジェクトを支援しています。



- プログラム運営の責任者としてプログラム総括が、全体マネジメントを行います。
- プログラム総括補佐はプログラム総括のサポートを行います。
- プログラムアドバイザーはプログラム総括に対し、専門的助言を行います。
- プログラム総括、プログラム総括補佐、プログラムアドバイザー、事務局が一体となり、プロジェクトの募集・選考を実施するとともに、効果的なプログラム運営に必要な会議や取り組み（研究開発への助言、サイトビジットの実施等）を行います。
- プログラムの効果最大化のために、プロジェクト間の交流や連携、相互作用を促進する各種企画、プロジェクトを横断・俯瞰する内外関係者との議論の場の設定（プログラム全体会議等）を行います。

プログラム総括

川北 秀人 2023年9月～ (IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所] 代表)
※2019年5月～ 2023年8月 プログラム総括補佐

関 正雄 2019年5月～ 2023年8月 (放送大学 客員教授／損害保険ジャパン株式会社経営企画部 シニア アドバイザー)

プログラム総括補佐

奈良 由美子 (放送大学 教養学部 教授)

プログラムアドバイザー

浅田 稔 (大阪国際工科専門職大学 副学長／大阪大学 先導的学際研究機構共生知能システム研究センター 特任教授)

岩崎 三枝子 (元経団連1%クラブ 座長／元トヨタ自動車株式会社 共生社会推進室 室長)

岩田 孝仁 (静岡大学防災総合センター 特任教授)

奥山 千鶴子 (NPO法人子育てひろば全国連絡協議会 理事長)

河野 康子 (一般財団法人日本消費者協会 理事)

竹内 弓乃 (特定非営利活動法人ADDS 共同代表)

田中 泰義 (毎日新聞社 論説委員)

萩原 なつ子 (独立行政法人国立女性教育会館 理事長／ NPO法人日本NPOセンター 代表理事)

平田 直 (東京大学 名誉教授)

廣常 啓一 (株式会社新産業文化創出研究所 代表取締役所長／帝塚山学院大学 社会連携機構 特任教授／
大阪公立大学大学院 都市経営研究科 客員講師)

藤江 幸一 (千葉大学 理事)

松崎 光弘 (株式会社エーゼログループ 創発推進本部 本部長／株式会社知識創発研究所 代表取締役)

山内 幸治 (NPO法人ETIC. シニア・コーディネーター／ Co-Founder)

善本 哲夫 (立命館大学 経営学部 教授)

日比谷 潤子 2019年7月～ 2021年3月 (学校法人 聖心女子学院 常務理事)

窪田 順平 2019年7月～ 2021年5月 (大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 理事)

長澤 恵美子 2019年7月～ 2023年3月 (一般社団法人 日本経済団体連合会 SDGs本部 副本部長)

(五十音順)

プロジェクト一覧



シナリオ創出フェーズ

令和6年度 採択

高リスク地点予測に基づく害獣モニタリング環境を活用した 住民・自治体関係者との協働による獣害対策のシナリオ創出

研究代表者 齋藤 寛（会津大学 コンピュータ理工学部 教授）

協働実施者 諏訪 慎弥（福島県 会津地方振興局県民環境部 副部長（総務）兼 県民生活課 課長）

誰もが一票を届けることができる、 有権者フレンドリーな投票実現のためのシナリオ構築

研究代表者 村岡 詩織（島根県立大学 地域政策学部 講師）

協働実施者 平林 浩一（狛江市 副市長）

ヤングケアラー負担ゼロに向けた家族まるごと支援を促進するシナリオ創出

研究代表者 門田 行史（自治医科大学 医学部小児科学 准教授）

協働実施者 磯 翔（一般社団法人 Apple Base 理事長）

令和5年度 採択

科学的根拠に基づく PPP/PFI 道路インフラマネジメント手法の構築と社会実装

研究代表者 貝戸 清之（大阪大学 大学院工学研究科 准教授）

協働実施者 川井 晴至（インフロニア・ホールディングス株式会社 総合インフラサービス戦略部 インフラサービス改革室 室長）

複数の運行形態を組み合わせた公共交通サービスの 共創支援シミュレーション手法の構築

研究代表者 金森 亮（名古屋大学 未来社会創造機構 モビリティ社会研究所 特任教授）

協働実施者 今枝 秀二郎（株式会社日建設計総合研究所 都市部門 研究員）

移動困難者の回遊・交流・社会参加を実現する 公共空間マネジメント DX プラットフォームのシナリオ創出

研究代表者 高取 千佳（九州大学 大学院芸術工学研究院 准教授）

協働実施者 清水 邦之（福岡市身体障害者福祉協会 会長）

令和4年度 採択

市民の SDGs 取組に向けた 行動変容のためのミュージアム活用シナリオの創出

研究代表者 佐々木 亨（北海道大学 大学院文学研究院 教授）

協働実施者 佐久間 大輔（大阪市立自然史博物館 学芸課 課長）

高速データ通信と AI 技術による豪雪中山間地における 新しい健康づくりのためのシナリオ創出

研究代表者 菖蒲川 由郷（新潟大学 大学院医歯学総合研究科 十日町いきいきエイジング講座 特任教授）

協働実施者 高津 容子（十日町市 市民福祉部 地域ケア推進課 課長）

性虐待などの被害児が心身の回復につながる医療機関をハブとする CAC（Children's Advocacy Center）モデルの構築

研究代表者 田上 幸治（神奈川県立病院機構 神奈川県立こども医療センター 臨床研究所 部長）

協働実施者 溝口 史剛（前橋赤十字病院 小児科 副部長）

離島の発達障害児医療におけるアバターロボットの活用支援体制の構築

研究代表者 永田 康浩（長崎大学 大学院医歯薬学総合研究科 教授）

協働実施者 熊崎 博一（長崎大学病院 地域連携児童思春期精神医学診療部 診療部長）

令和3年度 採択(終了)

ピアサポートのDX化による、新しい当事者参画医療社会モデルの構築に むけたシナリオの創出

研究代表者 北原 秀治（東京女子医科大学） 協働実施者 宿野部 武志（一般社団法人ビーベック）

人工知能を用いた障がい者の就労可能性の向上に資する、DX協働 基盤の開発と社会実装のためのシナリオ創出

研究代表者 塚田 義典（摂南大学） 協働実施者 大川 良利（株式会社オートバックスセブン）

人とシステムの協働による海岸清掃共創シナリオの構築

研究代表者 林 英治（九州工業大学） 協働実施者 清野 聡子（九州大学）

科学と実践が駆動する「地域ガバナンス」に基づく、未来志向型の森林 生態系の適応的管理に関するシナリオ開発

研究代表者 森 章（東京大学） 協働実施者 中西 将尚（公益財団法人知床財団）

令和2年度 採択(終了)

認知症包摂型社会モデルに基づく多様な主体による共創のシナリオ策定

研究代表者 内田 直樹（医療法人すずらん会） 協働実施者 笠井 浩一（福岡市）

水力発電事業の好適地である神通川水系における 流域治水に資する動的運用ルールの共創手法の構築

研究代表者 沖 大幹（東京大学） 協働実施者 手計 太一（中央大学）

発達障害の特性に関連する対処法を多様な脳特性に対応して 自動提案する情報配信サービスの可能性検証

研究代表者 佐々木 銀河（筑波大学） 協働実施者 鈴木 慶太（株式会社Kaizen）

温泉地域における超分散型エネルギー社会を実現するためのシナリオ策定

研究代表者 佐々木 壮一（長崎大学） 協働実施者 森 知洋（雲仙市）

小水力エネルギーを活用した災害復興時における主体形成と 持続的むらづくりのシナリオ形成

研究代表者 島谷 幸宏（九州オープンユニバーシティ） 協働実施者 村川 友美（株式会社リバー・ヴィレッジ）

地域の医療・保健・福祉・教育が連携して 自殺ハイリスクの子どもを守る社会システムのシナリオ創出

研究代表者 立花 良之（国立研究開発法人国立成育医療研究センター） 協働実施者 河西 千秋（札幌医科大学）

低消費電力・遠距離通信プラットフォーム構築による 安全安心な林業労働環境の創出と地域山林資源活用の可能性評価

研究代表者 森部 絢嗣（岐阜大学） 協働実施者 小池 達也（一般社団法人よだか総合研究所）

災害感応度の高い都市圏の災害連鎖の動的予測を可能にするシナリオ策定

研究代表者 渡辺 研司（名古屋工業大学） 協働実施者 永松 伸吾（防災科学技術研究所）

令和元年度 採択(終了)

障害情報の電子化による次世代地域・福祉サービス連携の創出

研究代表者 巖淵 守（早稲田大学） 協働実施者 本橋 栄三（所沢市社会福祉協議会）

水素技術を活用し、住民参画を目指したクリーンエネルギープロシューマーモデルの開発

研究代表者 牛房 義明（北九州市立大学） 協働実施者 工藤 里恵（北九州市 環境局）

包括的な災害リスクのプロアクティブアラートに基づくインクルーシブ防災の実現

研究代表者 小野 裕一（東北大学） 協働実施者 橋本 尚志（株式会社富士通総研）

性暴力撲滅に向けた早期介入とPTSD予防のための人材育成と社会システムづくり

研究代表者 長江 美代子（日本福祉大学） 協働実施者 片岡 笑美子（日本フォレンジックヒューマンケアセンター）

誰一人として水に困らない社会へ：小規模分散型の水供給・処理サービスの開発・可能性検証

研究代表者 西田 継（山梨大学） 協働実施者 杉野 栄（甲州市）

「住み続けたい」を支える離島・へき地医療サポートモデルの構築

研究代表者 前田 隆浩（長崎大学） 協働実施者 川上 敏宏（五島市）

共創的支援を促進する視覚障害者のための3D造形物配信・出力エコシステムの構築

研究代表者 南谷 和範（大学入試センター） 協働実施者 渡辺 哲也（新潟大学）

※終了したプロジェクトの研究代表者・協働実施者の所属は終了時点



ソリューション創出フェーズ

令和6年度 採択

ピアサポートの価値創造と普及による新しい医療社会モデル構築にむけた展開

- 研究代表者 北原 秀治（東京女子医科大学 先端生命医科学研究所 特任准教授）
協働実施者 宿野部 武志（一般社団法人ピーベック 代表理事）

多様なリンクワーカーとともにつくる社会的処方とテクノロジーがつなぐ 地域主導の未来型健康社会のソリューション創出

- 研究代表者 菖蒲川 由郷（新潟大学 大学院医歯学総合研究科 特任教授）
協働実施者 中村 洋心（新潟県 福祉保健部 部長）

性虐待などの被害児が心身の回復につながる医療機関をハブとする CAC（Children's Advocacy Center）モデルの構築と展開

- 研究代表者 田上 幸治（神奈川県立病院機構 神奈川県立こども医療センター 臨床研究所 部長）
協働実施者 本山 景一（茨城県立こども病院 小児総合診療科 副部長）

多様なステークホルダーの共創と連携による包摂的な眼科医療の社会実装

- 研究代表者 中山 慎太郎（株式会社 OUI 最高執行責任者）
協働実施者 清水 映輔（慶應義塾大学 医学部 特任講師）

令和5年度 採択

感染症制圧用情報技術の実用化に向けた多施設フィールドトライアル

- 研究代表者 奥村 貴史（北見工業大学 工学部 教授）
協働実施者 佐賀井 祐一（北海道 保健福祉部 感染症対策監）

Jet Peers ～村づくり主体形成を支える 小水力発電モジュールと多地域連携プラットフォームの開発～

- 研究代表者 村川 友美（株式会社リバー・ヴィレッジ 代表取締役）
協働実施者 島谷 幸宏（熊本県立大学 緑の流域治水研究室／地域共創拠点運営機構 特別教授）

地域ガバナンスに基づく自然資本の適応的管理： 地域とセクターをまたいだ共助の創出へ

- 研究代表者 森 章（東京大学 先端科学技術研究センター 教授）
協働実施者 中西 将尚（知床財団 保護管理部 参事）

令和4年度 採択

流域治水に資する動的運用ルール of 共創手法の構築と展開

- 研究代表者 沖 大幹（東京大学 大学院 工学系研究科 教授）
協働実施者 経澤 陽一（富山市 建設部河川整備課 課長）

ソーラーシェアリングを活用した自立型脱炭素スマート農地の確立と展開

- 研究代表者 倉阪 秀史（千葉大学 大学院 社会科学研究院 教授）
協働実施者 馬上 丈司（千葉エコ・エネルギー株式会社 代表取締役）

神経多様性に応じたチャットボットの地域 連携モデルの構築および他対象・多地域展開

- 研究代表者 佐々木 銀河（筑波大学 人間系 准教授）
協働実施者 竹田 一則（筑波大学 ヒューマンエンパワーメント推進局 次長）

地域の医療・保健・福祉・教育・市民等が連携して 自殺ハイリスクの子どもを守る社会システムのソリューション創出

- 研究代表者 立花 良之（国立成育医療研究センター こころの診療科 診療部長）
協働実施者 河西 千秋（札幌医科大学 医学部 主任教授）

令和3年度 採択

最後の一人を救うコミュニティアラートシステムのモデル開発 および実装

研究代表者 小野 裕一（東北大学 災害科学国際研究所 2030 国際防災アジェンダ推進オフィス 教授）

協働実施者 橋本 尚志（株式会社富士通総研 公共デジタル戦略グループ グループ長）

性暴力を撲滅する社会システム構築に向けた、早期介入とPTSDケア 迅速化の人材育成および全国展開に向けた体制づくり

研究代表者 長江 美代子（日本福祉大学福祉社会開発研究所 研究フェロー）

協働実施者 片岡 笑美子（一般社団法人 日本フォレンジックヒューマンケアセンター 会長）

小さな水サービスの導入を軸とした互助ネットワークの形成による、 社会的効用創出モデルの開発と展開

研究代表者 西田 継（山梨大学 大学院総合研究部附属国際流域環境研究センター 教授）

協働実施者 杉野 栄（甲州市上下水道課 課長）

「誰もが知りたいもの、必要なものを自由に手に入れ、触れられる社会」の 創成に向けた、3D モデル提供体制の開発と実装

研究代表者 南谷 和範（独立行政法人大学入試センター 研究開発部 教授）

協働実施者 渡辺 哲也（新潟大学 工学部 教授）

令和2年度 採択（終了）

幼児から青少年までのレジリエンス向上を目指した プログラムと人材育成体制づくり

研究代表者 石川 信一（同志社大学）

協働実施者 岸田 広平（関西学院大学／一般社団法人 青少年のための心理療法研究所）

コミュニティ防災人材育成システムの全国展開に向けた実証プロジェクト

研究代表者 三田村 宗樹（大阪公立大学）

協働実施者 末村 祐子（大阪市 住之江区 区長）

個別化したデータに基づく健康寿命延伸を実現するモデルの構築 ～いのち輝く社会を目指して～

研究代表者 宮田 裕章（慶應義塾大学）

協働実施者 佐藤 賢治（佐渡総合病院）

ジェスチャインタフェースを活用した運動機能障害者のための 就労・教育支援モデルの構築および人材育成

研究代表者 依田 育士（産業技術総合研究所）

協働実施者 水野 勝広（国立精神・神経医療研究センター）

令和元年度 採択（終了）

福祉専門職と共に進める「誰一人取り残さない防災」の 全国展開のための基盤技術の開発

研究代表者 立木 茂雄（同志社大学）

協働実施者 村野 淳子（別府市）

新生児のための診療支援システムの拡充を通じた重症化予防プロジェクト

研究代表者 北東 功（聖マリアンナ医科大学）

協働実施者 矢作 尚久（慶應義塾大学）

亜熱帯島嶼の持続可能な水資源利用に向けた 参画・合意に基づく流域ガバナンスの構築

研究代表者 安元 純（琉球大学）

協働実施者 金城 盛勝（八重瀬町）

※終了したプロジェクトの研究代表者・協働実施者の所属は終了時点

